



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2015.10

No.378

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



〜黒浜沼周辺における野鳥の増減について〜

(蓮田市環境学習館BW講座の記録から)

田中幸男(蓮田市)

● はじめに

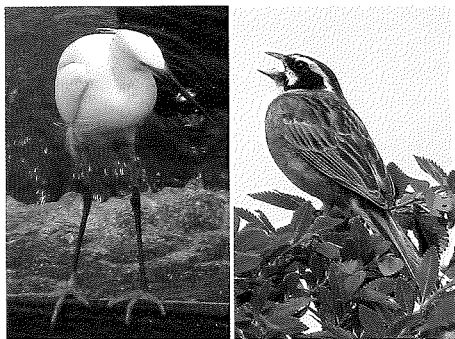
マイフィールド「黒浜沼周辺」で、ここ数年「コサギ、コジュケイ、バンが少なくなった」「モズが夏でも見られるようになった」「ホオジロやウグイスの声をよく聞くようになった」と感覚的に思っておりましたが、具体的にはどのようになっているかを調べたことはありませんでした。

そんな折、埼玉県のレッドデータブック動物編作成において、黒浜沼周辺の状況についてデータ提供の要請がありました。個人的な観察記録はありましたが膨大で整理もしていないので、思いついたのが毎回記録(玉井正晴氏の記録を引き継いだ記録)して、整理が進んでいた中島康夫氏がメイン講師の「蓮田市環境学習館バードウォッチング講座(以下学習館BW)」の観察記録を提供することでした。

そして、先に記した黒浜沼周辺の野鳥の増減について、自身の感覚と実態について、データをもって調べてみることにしました。

学習館BWは、20年以上の歴史(『しらこぼと』2014年2月号に記載)がありますが、毎月開講するようになったのは2005年5月からで1年を通じての記録はそれ以降になります。1年を秋冬と春夏に分けた2014年の記録に対し2005年との比較で種ごとの出現率の増減状況でその実態を調べてみることにしました。

尚、2004年以前については秋冬(11〜3月)



コサギ(左)とホオジロ(右) 写真:編集部

だけの開講でしたので、参考に1994-1996年の秋冬の出現率との比較もしてみました。

● 調査結果

対2005年比で出現率が20%以上増減した種は右ページ別表の通りですが、各対象期のサンプル数が5と少ないので、実態と乖離する部分もあると思いますが、傾向は示せているのではないかと考えております。

1994年以降学習館BWにおいて観察した種は98種です。そのうち、別表より出現率が20%以上増減した種は、(1)秋冬期で36種。内減少15種、増加21種、(2)春夏期で33種。内減少13種、増加20種でした。観察種の約30%が増減しておりました。

出現率が40%以上増減した種

出現率が40%以上と大きく増減した種は、

(1) 秋冬期で17種

減少; 8種-コサギ・バン・オナガ・オオタカ・カワウ・コガモ・タヒバリ・メジロ
増加; 9種-ジョウビタキ・コゲラ・ベニマシコ・チョウゲンボウ・ホオジロ・アカゲラ・アオサギ・シメ・マガモ

(2) 春夏期で12種

減少; 5種-ハクセキレイ・オナガ・オオヨシキリ・カワウ・コジュケイ
増加; 7種-ホオジロ・ウグイス・メジロ・シジュウカラ・アオサギ・オオバン・モズ

感覚と実態について

(1) 減少した種について

相当の減少が気になっていたコサギ・バン・タヒバリ・メジロ・コジュケイが数値でも現れました。しかし、オナガ・オオタカ・カワウ・コガモ・ハクセキレイ・オオヨシキリ・カワウの減少は感覚と相違があり継続的な調査が必要と思われます。またオオヨシキリは5-6月だけの観察では大幅に増加して

いる真逆の実態があります。

(2) 増加した種について

ジョウビタキ・コゲラ・ベニマシコ・ホオジロ・アカゲラ・アオサギ・シメ・ウグイス・オオバン・モズの増加は感覚的なものが数値でも現れました。特にホオジロ・アオサギ・ウグイス・モズはほぼ1年中観察できるようになっている状況があります。チョウゲンボウ・マガモ・メジロ・シジュウカラの増加は感覚との相違があり、継続的な調査が必要と思われる。

(3) 数値に出なかった種について

今回の調査で数値に現れなかったタゲリ・ムナグロ・カッコウなどは学習館BWでも観察機会がなくなり大幅に減少している感覚が強い

種です。

● おわりに

野鳥増減の要因は、黒浜沼周辺の環境変化、耕作方法の変化、渡り鳥の越冬地・越冬地の環境変化等々いろいろ考えられますが、実態を知ることがスタートとなります。

今回データ提供後、「データは年次別増減の比較、絶滅危惧種(指定)の貴重なデータとなる云々」との返事をもらい、ささやかな記録が役立つことを知りました。

さらに、継続的に記録を取り整理しておくことの大切さを改めて知り、併せて膨大な「日本野鳥の会埼玉の探鳥会記録」の重要性を再確認しました。

別表 黒浜沼周辺において2005年、2014年対比で出現率が20%以上増減した野鳥

連田市環境学習館バードウォッチング講座で確認した野鳥により調査

種	94～96年		秋 冬 10～3月					種	春夏 4～9月		2014年		増減状況 対05年	
	出現回数	出現率	2005年		2014年		出現回数		出現率	出現回数	出現率			
			出現回数	出現率	出現回数	出現率								
コサギ	7	88%	4	80%	0	0%	-88%	-80%	ハクセキレイ	4	80%	1	20%	-60%
バン	4	50%	4	80%	0	0%	-50%	-80%	オナガ	3	60%	0	0%	-60%
オナガ	6	75%	4	80%	1	20%	-55%	-60%	オオヨシキリ	5	100%	3	60%	-40%
オオタカ	4	50%	3	60%	0	0%	-50%	-60%	カワウ	3	60%	1	20%	-40%
カワウ	4	50%	5	100%	3	60%	10%	-40%	コジュケイ	3	60%	1	20%	-40%
コガモ	6	75%	5	100%	3	60%	-15%	-40%	バン	1	20%	0	0%	-20%
タヒバリ	0	0%	2	40%	0	0%	0%	-40%	ムナグロ	1	20%	0	0%	-20%
メジロ	6	75%	3	60%	1	20%	-55%	-40%	タシギ	1	20%	0	0%	-20%
ゴイサギ	1	13%	1	20%	0	0%	-13%	-20%	コシアカツバメ	1	20%	0	0%	-20%
コジュケイ	5	63%	1	20%	0	0%	-63%	-20%	セグロセキレイ	2	40%	1	20%	-20%
イカルチドリ	1	13%	1	20%	0	0%	-13%	-20%	セッカ	3	60%	2	40%	-20%
タゲリ	2	25%	1	20%	0	0%	-25%	-20%	カルガモ	5	100%	4	80%	-20%
ヒバリ	3	38%	2	40%	1	20%	-18%	-20%	キジ	5	100%	4	80%	-20%
ノビタキ	0	0%	1	20%	0	0%	0%	-20%						
アカハラ	1	13%	1	20%	0	0%	-13%	-20%						
キジバト	8	100%	4	80%	5	100%	0%	+20%	ヒヨドリ	4	80%	5	100%	+20%
ツグミ	7	88%	2	40%	3	60%	-28%	+20%	トビ	0	0%	1	20%	+20%
シジュウカラ	6	75%	4	80%	5	100%	+25%	+20%	オオタカ	0	0%	1	20%	+20%
カシラダカ	6	75%	2	40%	3	60%	-15%	+20%	ツミ	0	0%	1	20%	+20%
アオジ	8	100%	2	40%	3	60%	-40%	+20%	ノスリ	0	0%	1	20%	+20%
オオジュリン	5	63%	2	40%	3	60%	-3%	+20%	サシバ	0	0%	1	20%	+20%
カワラヒワ	8	100%	2	40%	3	60%	-40%	+20%	カワセミ	0	0%	1	20%	+20%
ムクドリ	8	100%	4	80%	5	100%	0%	+20%	シヨウドウツバメ	0	0%	1	20%	+20%
チュウサギ	0	0%	0	0%	1	20%	+20%	+20%	アオジ	0	0%	1	20%	+20%
オナガガモ	0	0%	0	0%	1	20%	+20%	+20%	オオジュリン	0	0%	1	20%	+20%
ノスリ	0	0%	1	20%	2	40%	+40%	+20%	シメ	0	0%	1	20%	+20%
ツバメ	0	0%	0	0%	1	20%	+20%	+20%	コムクドリ	0	0%	1	20%	+20%
マガモ	3	38%	1	20%	3	60%	+23%	+40%	ツグミ	1	20%	2	40%	+20%
シメ	6	75%	1	20%	3	60%	-15%	+40%	モズ	1	20%	3	60%	+40%
アオサギ	6	75%	2	40%	4	80%	+5%	+40%	オオバン	0	0%	2	40%	+40%
アカゲラ	1	13%	0	0%	2	40%	+28%	+40%	アオサギ	2	40%	4	80%	+40%
ホオジロ	7	88%	2	40%	4	80%	-8%	+40%	シジュウカラ	2	40%	4	80%	+40%
チョウゲンボウ	0	0%	0	0%	3	60%	+60%	+60%	メジロ	0	0%	3	60%	+60%
ベニマシコ	0	0%	0	0%	3	60%	+60%	+60%	ウグイス	0	0%	4	80%	+80%
コゲラ	4	50%	1	20%	4	80%	+30%	+60%	ホオジロ	1	20%	5	100%	+80%
ジョウビタキ	5	63%	0	0%	4	80%	+18%	+80%						

≪ 【 秋冬においては対94～96年も参考として記載 】 ≫

野鳥記録委員会の最新情報

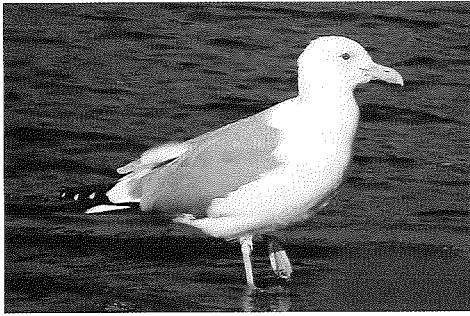
日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ニシセグロカモメ

英名 Lesser Black-backed Gull

学名 *Larus fuscus*

分類 チドリ目カモメ科カモメ属



2015年4月2日午後4時ごろ、石川敏男幹事により、春日部市内を流れる大落古利根川の八幡橋下流で写真撮影されました(上写真ほか2枚)。検討の結果、当委員会は332種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

「大型カモメのグループ」の学問上の分類は、現在でもまだ流動的なものと考えられ、議論はさらに続くと思われます。しかし、『日本鳥類目録』改訂第7版(2012年)ならびに『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版(2015年)が示す見解を、現時点における「ひとつの到達点」ととらえて、当委員会はそれにならうこととしたものです。したがって、今回のニシセグロカモメの記録は、今後の分類研究の動向次第では修正が必要になるかもしれません。

さて、本個体は、①嘴の色と同じくらいはっきり足が黄色いこと、②下嘴先端の赤斑が横長で大きいこと、③初列風切の白斑が小さいこと、④初列風切の換羽が完了していること、などから、ほぼ夏羽の、ニシセグロカモメ成鳥と判断しました。ただし、上掲写真の撮影時に、その場に居合わせたカモメ類はなく、本個体と他のカモメ類との背中の灰色の濃淡の差異を直接見比べることはできなかったことなどから、本稿においては、亜種のレ

ベルまでの判断は保留します。また、キアシセグロカモメ *Larus cachinnans* は、体型や顔付き(例えば、全体のシルエット、嘴の長さや額の形、など)が異なるうえ、(モノクロ写真ではお伝えしにくいことですが)足がこれほど濃い黄色を呈することは無いと思われま

す。なお、当委員会は、本誌2005年6月第254号において「キアシセグロカモメ?」という参考記録を発表していますが、当時の『日本鳥類目録』にニシセグロカモメやキアシセグロカモメの記載はなく、単に「足が黄色っぽいセグロカモメがいた」という程度の報告であり、現今のキアシセグロカモメについての知見を踏まえた観察事例ではありません。

●カツオドリ

英名 Brown Booby

学名 *Sula leucogaster*

分類 カツオドリ目カツオドリ科カツオドリ属

8月11日付け産経新聞埼玉県版によると、「埼玉県生態系保護協会は、本年8月5日午後4時ごろ、人間郡越生町黒山の林道で、衰弱したカツオドリ幼鳥が保護されたと発表した」とのこと。掲載された写真も、その説明に矛盾はないように見えます。

本種は、ほぼ世界中の熱帯から亜熱帯にかけての海域に広く分布する海洋性の鳥で、海上では比較的普通に見ることができますが、内陸部で記録されるのはきわめてまれな事例と言えます。1978年に埼玉県教育員会が発行した『埼玉県動物誌』にも、記載はありません。

当委員会は、このたびの新聞報道を客観的にも信頼できる情報と判断し、本種を333種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

なお、本種は「日米渡り鳥条約」ならびに「日豪渡り鳥協定」の指定種になっています。



野鳥情報

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇4月18

日、センダイムシクイ♂1羽、轉りと姿を確認。4月25日、クロジ♀1羽の姿を確認。4月28日、キビタキ1羽轉る。5月1日、オオルリ♂1羽、轉りと姿を確認。別の場所でもう1羽が轉る。5月15日、エゾムシクイ1羽轉る。センダイムシクイ、少なくとも2羽が轉る(小林みどり)。

さいたま市見沼区染谷 ◇4月24日、キビタ

キ1羽、オオルリ1羽。5月22日、キビタキ、2カ所で轉る。メジロ1羽、しだれ桜の実をつつく。果汁をなめているのか、表面の虫を食べているのか?(小林みどり)。

さいたま市大宮区大宮第二公園 ◇5月1日、

梅林付近の常緑樹が多い林でキビタキ♂1羽、オオルリ1羽轉る。5月8日、芝川沿いでオオヨシキリ1羽轉る。モズ親鳥が幼鳥に採餌。カワセミ1羽。6月26日、セグロセキレイ成鳥1羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇5月12日、キジ

3羽、カルガモ6羽、コチドリ4羽、カワセミ1羽、ヒバリ7羽、セッカ1羽。6月15日、キジ2羽、カルガモ9羽、カワセミ1羽、オオヨシキリ1羽。7月23日、アオサギ1羽、ダイサギ1羽、カワウ2羽(小林みどり)。

さいたま市見沼区蓮沼周辺 ◇5月14日、小

さな林でキビタキ轉る。すぐ近くで声がするのに、姿は確認できず。5月15日、ケリ1羽、「キッ」「キッ」とひと声ずつ強く鳴きながら、住宅地の上空を西から東へ飛ぶ(小林みどり)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇5月19日、

A区でコチドリ、Aサイド区でタマシギ♀1羽、レッズランド付近でカッコウの声(小林みどり)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇6月17日、キジ♂

1羽、他に数カ所で声を聞く。ゴイサギ若鳥1羽、いわゆる「ホシゴイ」であるが、虹彩が赤く冠羽が伸びている個体。ケリ1羽、畦道に仁王立ちになり、首を伸ばしてしき

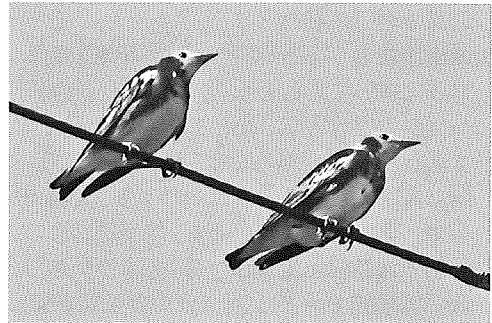
りに「キリリッ、キリリッ」と鳴く。明らかに警戒姿勢なのに、お構いなしに近づくカメラマン。我慢できずについに飛び立つ。他にもう1羽が周囲を飛びまわる(小林みどり)。

さいたま市中央区与野公園 ◇7月7日、弁

天島の小さな銭洗池にカルガモ幼鳥が7羽も入り込んで逆立ち採餌。何かおいしいものでもあるのだろうか? 幼鳥は全部で8羽、まだ飛べないが、大きさ・姿とも遠目には親鳥との見分けが難しいほどに成長した。7月31日、弁天池で居残りマガモ♂1羽(左の翼が垂れ下がりが味)は、エクリプスに換羽中。他には、カルガモ若鳥が1羽だけ残っている(大塚純子)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇7月10日

午後1時~3時、昨日、岩槻城址公園でコムドリ数羽を見たので、岩槻文化公園にもいるだろうと出掛けた。なかなか見つからず、城址公園に向かおうとすると、いました、いました。やはりムクドリの群れに混ざって電線にいました(下写真)。シジュウカラやエナガの幼鳥も成鳥に近くなってきていた。元荒川では、カイツブリが家族でまとまって行動していた(菊川和男)。



春日部市倉常 ◇7月11日、午後2時30分、

電波塔下の夏水田んぼにセイタカシギ6羽、親子だろうか? ここでは今季初のシギ・チドリ類の確認となった。午前中、茨城県稲敷市の水たまりでも同種を7羽見たので、今日はセイタカシギの“当たり日”のようだった。7月25日午前5時、中川沿いの夏水田んぼにクサシギ7羽、イソシギ1羽。渡りのシーズンの初めは、クサシギも群れで見ることが多い感じがする。朝もやの中、

盛んに採餌をしていた。電波塔下の夏水田んぼにはダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギが計70羽近くいた。ここが、ねぐらなのだろうか？ 8月13日、午後1時、電波塔下の夏水田んぼにケリが3羽、幼鳥だろうか？ 短い期間だが、毎年この時期に見られる。警戒心が強いので、なかなか近くには来なかった（佐野和宏）。

さいたま市中央区野公園 ◇7月13日夕方、弁天池で新顔のカルガモ親子。この日孵化したばかり？の7羽の幼鳥は、水面を飛ぶような速さで泳ぐ。翌14日夕方には、8羽揃って池を離れ、以来姿を見かけない（大塚純子）。

蓮田市黒浜 ◇7月17日、上沼の水面にカイツブリ親子2組。1組は成鳥1羽+幼鳥2羽。もう1組は成鳥1羽+幼鳥1羽。どちらも幼鳥は親鳥の背に乗ることなく、水面に浮かんでいた。どこからかカワセミの声（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区片柳1丁目 ◇7月22日朝、ムクドリ10数羽と少し距離を置いてとまるコムクドリ♀1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区七里総合公園 ◇7月23日、カワセミ1羽。ハクセキレイ成鳥♂1羽、幼鳥1羽（小林みどり）。

川越市南古谷 ◇7月26日、入間川探鳥会の帰りに寄ってみると水の入った田んぼの一つにタカブシギが3羽、思いのほか近くで見られた。今季県内では初観察。その他、田んぼのシギ・チドリはコチドリが数羽のみで、まだまだこれからだ（佐野和宏）。

さいたま市桜区上大久保 ◇7月26日夕方、作田調整池でカモ1羽（カルガモ似だが、顔に黒い線なし、嘴は黒く、先が黄緑色、…交雑種？）。不意に2羽のカルガモが謎のカモを襲って噛みつき、哀れ、謎ガモは追い立てられて何処へとも知れず飛び去った（大塚純子）。

春日部市大増 ◇8月2日、車運転中に電線のコムクドリ約200羽を確認（鈴木紀雄）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇8月15日、サシバ若鳥がカラス6羽に追われて高く舞い上がり、西に抜けた。今季の初認。8月28日、

屋敷林の一本杉に止まっていたサシバにオナガ4羽が威嚇。しばらくして、カラス数羽が威嚇。サシバは西に飛び去った。屋敷林からコジュケイの声。続いてオナガに追われてツミが飛び出した（長嶋宏之）。

（公財）山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館では、ジャパン・バード・フェスティバル（JBF）2015（10月31日（土）・11月1日（日））、我孫子市内にあわせ、第一線の研究者からわかりやすく研究の成果を紹介してもらう、恒例の「鳥学講座」を開催します。今年はJBF15周年、また鳥学講座第25回の記念の年にあたりますので、例年のようにお一人の講師による講演で終わるのではなく、JBFの林良博実行委員長が聞き手となるトークショーを企画しました。

JBF15周年 鳥学講座スペシャル トークショー
「研究最前線～今どうなってる？ 鳥と恐竜」
講師：真鍋 真（まなべ・まこと） 国立科学博物館グループ長

聞き手：林 良博（はやし・よしひろ） JBF 実行委員長・（公財）山階鳥類研究所所長・国立科学博物館館長

日時：平成27年10月31日（土）13:30～15:30（開場 13:00）

場所：アビスタ（我孫子市生涯学習センター）ホール（定員120名）千葉県我孫子市若松26-4

参加費：無料（事前の申し込みはいりません）
主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館（Tel 04-7185-2212）、（公財）山階鳥類研究所（広報担当Tel 04-7182-1101）

会場までの交通：JR常磐線 我孫子市駅南口からアビスタ・市役所経由のバスでアビスタ前下車すぐ。

表紙の写真

カイツブリ目カイツブリ科カンムリカイツブリ属ハジロカイツブリ

8月に県内で見たこともあるが、私の記録で最も早い冬の初認は、今のところ10月9日。4年前の2011年、戸田市・さいたま市などに広がる彩湖。夏羽が残っていた。

海老原美夫（さいたま市）



行事案内



コサメビタキ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：秋の渡り途中の小鳥たちがこの公園に立寄ってくれます。コサメビタキにエゾビタキ。運が良ければキビタキにも会えるかもしれません。青空の下、猛禽類やショウドウツバメの飛翔にも期待です。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：伊藤、赤堀、大井、須崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：待ちに待っていた秋の渡りの季節、到来。晴天に恵まれれば、渡っていく色々な鳥たちに会えるかもしれません。ここ数年減っていますがノビタキに会えるチャンスも。期待したいですね。

ご注意：状況によっては、コースを変更する

場合があります。途中にトイレがありません。ご注意ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：会のホームページによると、秋の狙い目エゾビタキ、ノビタキ、ツツドリ、ショウドウツバメの出現率は10月がピークです。爽やかな秋風の中できっと出会えるような気がします。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月17日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→南栗橋 7:52→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線に乗り換え、柳生 8:06 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、山田

見どころ：いよいよカモのシーズン到来です。エクリプス識別の準備はいかがでしょうか？ 準備の間に合った方も、間に合わな

かった方もお気軽にご参加ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月17日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

作業終了後は、かる～く懇親会。いろいろな話題でにぎわいます。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、赤堀、浅見(健)、楠見、小菅、小林(み)、柴野、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：昨年10月は、晴天にも恵まれて31種類もの野鳥を確認できました。北国から帰ってきたコガモ。何回見てもうれしいカワセミ。三室名物のオオタカにチョウゲンボウ。さて今年は何が待っているかな？

川越市・西川越探鳥会

期日：10月18日(日)

集合：午前9時、JR川越線西川越駅前。
交通：JR埼京線大宮8:16→川越で8:46発八王子行きに乗り換え→西川越8:49着。
担当：石塚、中村(祐)、長谷部、廣田、山口、山本

見どころ：深まり行く秋の気配を感じながら、鳥達がたわむれ、さえずり、こっちへおいでと迎え入れてくれます。さて私達も仲間に入れてもらいましょう。ジョウビタキ？コガモ？今年は何が迎えて。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月24日(土)～25日(日)

詳細は9月号をご覧ください。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月25日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り 9:05 発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。またはJR高崎線吹上駅北口から、朝日バス8:47 発、行田折り返し場(佐間経由)行きで「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、竹山、立岩、村上、茂木

見どころ：暑い夏も終わり冬鳥の季節がやってきます。ここでジョウビタキの初認をする方も多のですが、今年はどうでしょうか。秋の公園と周辺の農村地域を散策しましょう。

東京都日野市・多摩動物公園探鳥会(要予約)

期日：10月25日(日)

詳細は9月号5ページをご覧ください。

宮城県・蕪栗沼探鳥会(要予約)

期日：11月28日(土)～29日(日)

集合：28日午前7時、東武野田線岩槻駅前。
交通：往復貸切バス(中型)を使用。
解散：集合場所にて29日午後6時ころの予定。
費用：27,000円(1泊3食宿泊費・懇親会費・入湯料、貸切バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：22名(埼玉会員限定、先着順)、最少催行人数16名。

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、長野誠治()

まで。10月1日消印から受付有効とします。

担当：長野、青木、入山、佐野

見どころ：今回は蕪栗沼に絞っての鳥見です。数万羽のガンのねぐら入り・朝の飛び立ち、初めての方はもちろん、何回見ても感動もの。ガン・カモ類、猛禽類、冬の小鳥類を観察します。

宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意はできません。温泉(大浴場)が隣接しています。



行事報告

2月11日(水、祝) さいたま市 大宮市民の森

参加: 65名 天気: 曇

カルガモ ハシビロガモ コガモ キジバト アオサギ ダイサギ コサギ バン タシギ イソシギ ツミ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (37種) (番外: ドバト) 行事案内にも記載した最後のコースを歩く。鳥たちが盛りだくさんで、歩くスピードもゆっくり。結果、本来のコースの半分で終わってしまったが、様々な鳥達に出会い、満足のいく探鳥会であった。ここに限らず見沼地区は埼玉の基本の鳥達に出会える。本当にいい探鳥地であると実感した。(青木正俊)

3月1日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 11名 天気: 小雨後曇

コジュケイ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ オオバン イカルチドリ クサシギ イソシギ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (38種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 春雨の中、荒川河岸まで下りるとベニマシコ、カモ類などが出迎え、さらに川沿いには冬鳥と春を告げる鳥たちも多くいた。道端ではシメが散歩していて、全員で観察。玉淀河原は、まさに鳥の楽園。オシドリが見られず残念。(茂木幸蔵)

3月8日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 20名 天気: 曇時々雨

ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キ

ジバト カワウ アオサギ ダイサギ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ アオジ (22種) (番外: ドバト) 先ず田圃にアオサギ5羽を発見。夏羽も混じる。芝生で採餌するヒドリガモの群れ、対岸のアカハラに皆の足が止まった。植物園ではアシの刈後にツグミとシメを発見。このころから次第に雨が強くなり、下見時のアリスイとアオゲラに未練が残ったが、コース半ばで終了した。(長嶋宏之)

3月14日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加: 48名 天気: 曇

ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン オオタカ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (31種) (番外: ドバト) 第6回見沼たんぼクリーン大作戦に参加。『しらこぼと』やホームページでの呼びかけに、小さなお子さんも含め48名もの方々が集まってくれた。各々ゴミ袋とトングを手にゴミ拾い。もちろん鳥見も怠らず。途中休憩と、ゴミ仮置きに協力いただいた「見沼くらしっく館」さん。ありがとうございました。(浅見 徹)

3月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 76名 天気: 曇

キジ カルガモ ハシビロガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン オオタカ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (34種) (番外: ドバト) 肌寒さが残る中出発。しかし、早々にヒートアップ! 見沼用水にカワセミ♀。畑には疾走するキジ♂。芝川ではオオジュリンの群れを観察。畑の中に案山子の様にたたずむアオサギも。一般の参加者やお子様連れの参加者も多く、賑やかな探鳥会になった。(須崎 聡)

3月15日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：24名 天気：曇

ヒドリガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン
カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ
スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ
シメ ホオジロ ホオアカ アオジ オオジュリン
(30種) (番外：ドバト) 少し寒かったが元気に出発するとコゲラが出迎えてくれた。調整池ではコガモとキンクロハジロ、それにオオバンを観察。農耕地に出るとカラスの大群に「ミヤマガラスか」と色めき立ったがハシボソだった。中川の土手道ではホオアカを執念で探し出した。冬鳥とのお別れをした探鳥会だった。(田邊八州雄)

3月21日(土) 坂戸市 高麗川

参加：19名 天気：曇

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ
バン オオバン オオタカ ノスリ カワセミ
コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス
ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ
ヒヨドリ ウグイス メジロ ヒレンジャク ムクドリ
ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ
カシラダカ アオジ (38種) (番外：ガビチョウ)
参加者が少なかった分、ほぼ全員が同じ鳥を確認できた。ウグイス、ヒバリがさえずり、足元にはオオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウなどが咲き、少々肌寒い日であったが、春を十分感じられた。猛禽3種の飛翔もあったが、目玉は何といっても高麗川探鳥会では初記録となるヒレンジャク6羽の出現だった。(山口芳邦)

3月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

相原修一、宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

3月22日(日) 栃木県 日光東照宮裏山

参加：25名 天気：晴

カルガモ コガモ イカルチドリ イソシギ ト

ビ オオタカ ノスリ クマタカ コゲラ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ
ヒガラ シジュウカラ エナガ ゴジュウカラ
ミノサザイ カワガラス キセキレイ セグロセ
キレイ ホオジロ (22種) 開始早々、鳴虫山稜線
にクマタカ出現！ 大谷川にはカワガラスとミノ
サザイ。稲荷川沿いに滝尾神社付近まで登るが、
小鳥は少ない。川岸で昼食をとっていると正面稜
線にまたもクマタカ！ 帰途も、ノスリ2羽の求
愛飛翔にクマタカが割り込み、クマタカに終始。
キバシリは出ず、残念。(浅見 徹)

3月22日(日) 狭山市 入間川

参加：37名 天気：晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイ
ツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
コサギ オオバン コチドリ トビ オオタカ
カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ
ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ
ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ オオ
ジュリン (40種) (番外：ドバト) 今年もツバメと
コチドリがやってきた。イワツバメは見られず、
ツバメの数も少なかったが、いよいよ春らしくな
ってきた。冬鳥の種類も多く、観察種数は40種。
カタクリ自生地に行くと、天気の良いためきれいに
開花した花を楽しめた。(長谷部謙二)

3月29日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

雨のため中止。(佐野和宏)

3月29日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：38名 天気：晴後曇

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ハシビロ
ガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンク
ロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオ
サギ ダイサギ コサギ クイナ バン コチド
リ タシギ トビ オオタカ カワセミ コゲラ
チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブ
トガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨ
ドリ ウグイス メジロ セッカ ムクドリ シ
ロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ タヒバ
リ カワラヒワ シメ ホオアカ カシラダカ

オオジュリン (44種) (番外: ドバト) 古墳公園ではオオタカが舞い、2箇所でカラスが抱卵している。旧忍川沿いのアシ原の陰をクイナが歩き、ホオアカやタシギも飛ぶ。オオジュリンの頭は黒く、アオサギも綺麗な婚姻色となり春を感じる。浄水場では数百羽のキンクロハジロを含めカモ8種を見るがマガモはすべて帰った。(相原修一)

4月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 23名 天気: 小雨

コジュケイ キジ カルガモ コガモ キジバト アオサギ ダイサギ カワセミ コゲラ アオゲラ カケス ハシボソガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ スズメ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (26種) (番外: ガビチョウ) 小雨だが、初参加者もあり実施。開始直後に広場で木に止まりじっとしているカケスを望遠鏡でじっくり観察。その後も何度も見られカケスDAY。エドヒガンの前でキジのみと♀を黄色いレンギョウの花の間に。カワセミは河川敷の釣り場、一夜堤の南側の小さな池。冬鳥がまだいて、夏鳥はツバメを見た。春の花も色々楽しんだ。エドヒガンはすでに葉桜。桜堤と蒲ザクラは満開を過ぎていたが充分楽しめた。雨のため公園は人が少なく本来の鳥見も楽しめた。(吉原俊雄)

4月5日(日) さいたま市 民家園周辺

雨のため中止。

(伊藤芳晴)

4月12日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 45名 天気: 晴

キジ キジバト カワウ アオサギ トビ ツミ オオタカ サシバ ノスリ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (32種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 桜が見ごろでハイカーの多い中スタート。恥ずかしがり屋の鳥たちはなかなか姿を見せたくないが、ヒヨドリは桜の花蜜目当てに我先と飛び回る。ガビチョウは大きな声でアピールしてくれ、猛禽は5種確認出来た。(井上幹男)

4月12日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 36名 天気: 晴

カルガモ コガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ コチドリ トビ オオタカ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (30種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 冬鳥はあらかた去り、夏鳥はまだして、探鳥には難しい時期。萌え出した新緑を楽しみながら、トトロの森周辺を歩いた。シロハラ、ツグミが名残の姿を見せ、シジュウカラ、エナガ等の小鳥たちは繁殖期に入って旺盛に飛び回っていた。湖上にはギリギリ残っていたカンムリ…、ハジロ…のカイツブリ類を確認することが出来て、“狭山湖探鳥会”の面目を辛うじて保てたようだ。「冬残り 移ろう季(とき)を里に見る 鳥や桜の名残りの中に」(石光 章)

4月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

4月19日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 46名 天気: 曇

キジ カルガモ キジバト チュウサギ コチドリ タシギ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ エナガ センダイムシクイ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (30種) アスレチック広場内「じゃぶじゃぶ池」で早速、予定通り(?)にアカハラ♂1羽が登場した。幸先良過ぎてこれで鳥運が尽きるかもと心配になったが、杞憂に終わる。最後の最後に林間アスレチック広場内でシロハラが出てくれた。夏鳥はコチドリ、ツバメ、チュウサギ、センダイムシクイ位でまだ多くの冬鳥が残っていた。曇り空ながら天候にも恵まれ、久振りに多くの参加者と芽吹きの新緑のもと森林浴ができた。(石川敏男)



● 多摩川河口の自然を考えるシンポジウム 2015

(仮称)羽田連絡道路の建設が予定されている多摩川河口干潟の、過去、現在、未来を考えます。

10 月 31 日(土)13:30~18:30。ラゾーナ川崎 5 階「プラザソル」(JR 川崎駅徒歩 5 分、電話 044-874-8501)。入場無料・先着 200 名。講演:「多摩川河口干潟のシギ・チドリ類」

守屋年史(バードリサーチ)、「羽田空港周辺・京浜臨海部の連携強化((仮称)羽田連絡道路の整備)」川崎市、など。パネルディスカッション:主催・共催・後援 団体からの出席者など。

主催:日本野鳥の会神奈川支部、日本野鳥の会東京 共催:(公財)日本野鳥の会 後援:(公財)世界自然保護基金ジャパン、(公財)日本自然保護協会

詳しくは、神奈川支部のホームページをご覧ください。

● 投稿写真についてのお願い

様々な写真をご投稿いただき、ありがとうございます。でも、例えば息息や子育てに影響があったかもしれないと思われる写真、ピントが合っていない写真、容量(バイト数)が小さすぎたり大きすぎたりするメール写真などは、掲載できない場合があります。

郵便で送られたプリントの場合は、スキャナーで取り込み、JPEG データにして編集します。2 L サイズくらいでお送りいただくと、比較的良好な画質で取り込めます。

メールの場合は、1 枚 200KB 程度以上、1 回の合計 9MB 程度以下でお送りください。小さすぎると画質が低下して、誌面印刷用には

使えません。大きすぎると、扱いにくくなる場合があります。

● 会員の普及活動

8 月 12 日(水)の早朝 6 時半から 1 時間、春日部市丘の上教会が開催した「キャンプの一環として鳥を見る」で、小学生 13 名を含む総勢 22 名に、野村弘子が野鳥観察を指導しました。

● 会員数は

9 月 1 日現在 1,750 人。

活動と予定

● 8 月の活動

8 月 8 日(土)『しらこぼと』9 月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之、森本國夫)。

8 月 16 日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告、1~4 月行事予定・その他)。

8 月 17 日(火)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』9 月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 10 月の予定

10 月 3 日(土) 編集部会。普及部会。

10 月 10 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。

10 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

10 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

必要があつて、初めて昆虫観察会に参加した。しかし、自分だけが「ほら、これだよ」と 10 cm 近くまで指さしてもらわないと存在がわからない。多くの参加者は「あの木に」とか「その草に」だけで、「いるいる」と確認できている。それは鳥を見始めた頃に味わたもどかしさと似ていた。そして、その時にわかりやすく教えてくれたベテランの顔をこの昆虫観察会で思い出した。(山部)

しらこぼと 2015 年 10 月号(第 378 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社